

特定研究集会（課題番号：29C-05）

集会名：有効な災害リスク・コミュニケーションの基盤となる災害情報に関する研究集会（第 19 回日本災害情報学会）

研究代表者：矢守克也

開催日：平成 29 年 10 月 21～22 日

開催場所：京都大学防災研究所

参加者数：291 名（所外 276 名，所内 15 名）

・大学院生の参加状況：8 名（修士 5 名，博士 3 名）（内数）

・大学院生の参加形態 [研究発表および研究発表の補助業務]

研究及び教育への波及効果について

本研究集会（災害情報学会大会）は、災害情報研究をテーマとする国内唯一の学会組織である災害情報学会の年次発表大会を兼ねており、第一線の研究者が多数参加した。災害情報研究に関する最先端の研究結果が、最近の災害（熊本地震や九州北部豪雨など）に関する研究を含め、多数発表され検討された。防災研に所属する研究者、大学院生も多数参加し、防災研究所が推進する学際的な防災研究および教育の推進に大きな波及効果をもたらした。

研究集会報告

(1) 目的

災害情報の高度化・精緻化が一段と進んでいる。しかし、低調な災害リスク認知（「まさか××で大きな地震があるとは…」）、基礎的な知識の欠落（「避難準備情報なんて、はじめて耳にした」）などに見られるように、災害情報をインフォメーションからコミュニケーションへと昇華させるための知識・技術については未だ課題である。本集会はこうした災害情報に関する最新の課題について討議することを目的とする。

(2) 成果のまとめ

真に有効な災害情報を創出することは、減災社会の形成にとって重要な課題であり、大きな社会的な要請に応えることになる。今回、下記(3)に示した通り多様なテーマにわたって、合計 291 名の参加を得て、インフォメーションとしての災害情報について研究する基礎科学的なアプローチとコミュニケーションとしての災害情報について研究する実践科学的なアプローチとの融合・総合を図るための場を創出できたことは、災害情報研究にとって大きな成果であった。

(3) プログラム

10 月 21 日（土）

09:30-10:40 口頭発表（セッション 1）テーマ：防災教育・情報技術・地域防災・経済

10:50-12:00 口頭発表（セッション 2）テーマ：災害方法・地震（避難）・国自治体

13:00-14:40 口頭発表（セッション 3）テーマ：国自治体・防災教育・地域防災，風水害

15:00-17:00 公開シンポジウム「つながる，つなげる－災害情報の地域ネットワーク－」

17:10-18:40 ポスターセッション

10 月 22 日（日）

09:30-10:40 口頭発表（セッション 4）テーマ：火山・防災教育・地震・災害報道

10:50-12:00 口頭発表（セッション 5）テーマ：熊本地震・地域防災・風水害

13:00-14:40 口頭発表（セッション 6）テーマ：熊本地震・情報技術・九州北部豪雨

(4) 研究成果の公表

（予定無し）